

CLIPPEDIMAGE= JP362264752A

PAT-NO: JP362264752A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 62264752 A

TITLE: OUTGOING SYSTEM FOR TELEPHONE SET

PUBN-DATE: November 17, 1987

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

SUDA, KOJI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

NEC CORP

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP61106782

APPL-DATE: May 12, 1986

INT-CL_(IPC): H04M001/27; G06K007/00 ; G06K007/10

ABSTRACT:

PURPOSE: To prevent a wrong dialing and to simplify the dialing by using a bar code reader to read a telephone number subjected to bar coding for the dialing thereby eliminating the need for dialing after looking at a telephone number.

CONSTITUTION: In hooking off a hook switch 2, a CPU 3 and an interface 4 are in the telephone number information input waiting state. Then plural opposite telephone numbers are read by a bar coder reader 5 from a telephone directory where plural telephone numbers are bar-coded and printed out. The read information is converted by an interface 4 and sent to a CPU 3. The CPU 3 decodes the converted information, sends it as a telephone number signal to a sending circuit 6, where the signal is converted into a dial pulse, which is sent via a network 7.

COPYRIGHT: (C)1987, JPO&Japio

⑱ 公開特許公報 (A)

昭62-264752

⑲ Int.Cl.

H 04 M 1/27
G 06 K 7/00
7/10

識別記号

庁内整理番号

7251-5K
U-2116-5B
Z-2116-5B

⑳ 公開 昭和62年(1987)11月17日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

㉑ 発明の名称 電話機の発信方式

㉒ 特願 昭61-106782

㉓ 出願 昭61(1986)5月12日

㉔ 発明者 須田 耕司 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

㉕ 出願人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号

㉖ 代理人 弁理士 芦田 坦 外2名

明細書

1. 発明の名称

電話機の発信方式

2. 特許請求の範囲

1. パーコードリーダと、該パーコードリーダから読み込まれたパーコード化された電話番号を解読して、発信信号として送出する解読送出手段とを備える電話機を有し、前記パーコードリーダによってパーコード化された電話番号を読み取ることによって発信操作を行うようにしたことを特徴とする電話機の発信方式。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は電話機に関し、特に電話機の発信方式に関する。

(従来の技術)

一般に、電話機での発信操作はダイヤルあるいは

はプッシュボタンによって行われている。

(発明が解決しようとする問題点)

ところで、従来の発信操作の場合、電話番号を見て(読み取って)から、ダイヤル(あるいはボタンをプッシュ)する必要があり、即ち、電話番号の読み取り、ダイヤルという動作をしなければならず、また、誤ダイヤルが多いという問題点がある。

(問題点を解決するための手段)

本発明は、パーコードリーダと、該パーコードリーダから読み込まれたパーコード化された電話番号を解読して、発信信号として送出する解読送出手段とを備える電話機を有し、前記パーコードリーダによってパーコード化された電話番号を読み取ることによって発信操作を行うようにしたことを特徴としている。

(実施例)

以下本発明について実施例によって説明する。

図面を参照して、本発明による電話機1はフッタスイッチ2、中央処理回路(以下CPUという)

3, バーコードリーダインターフェース回路（以下インターフェースという）4, バーコードリーダ5, 発信信号送出回路（以下単に送出回路という）6, 及びネットワーク7を備えている。

通話を行う際、受話機（図示せず）等をはずして、ファクススイッチ2をオフ（OFF）とする。ファクススイッチ2がオフとされると、CPU3及びインターフェース4はファクススイッチ2からのオフ信号を受け、これによって、電話番号情報入力待ち状態となる。

次に、複数の電話番号がそれぞれバーコード化されて、印刷された電話番号表から通話を行う相手方電話番号をバーコードリーダ5で読み取る。このバーコード化された電話番号情報はインターフェース4で所定の信号（CPU3が解読できる信号）に変換され、CPU3へ送られる。

CPU3は上述の変換信号を解読し、電話番号信号として送出回路6に送る。この電話番号信号は送出回路6でダイヤルパルス（あるいはプッシュボタン信号）に変換され、このダイヤルパルスは

ネットワーク7を介して局線（あるいは構内交換機の電話機インターフェース回路）へ送出される。そして相手側電話機と接続され、通話ができる。

（発明の効果）

以上説明したように、本発明ではバーコードリーダによって、バーコード化された電話番号を読み込んで、発信信号として送出するようにしたから、従来のように電話番号を見て（読み取って）、ダイヤルするという動作を行う必要がなく、誤ダイヤルを防止することができる。

また、バーコードの作成は、汎用のパソコン等で簡単に作成でき、印刷も極めて簡単である。また、バーコードリーダの形態から考え、バーコードを印刷する用紙等の大きさは所定の大きさ以上であればよい。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示す図である。

1…電話機、2…ファクススイッチ、3…中央処理回路（CPU）、4…バーコードリーダインターフェース回路（インターフェース）、5…バーコードリーダ、6…発信信号送出回路（送出回路）、7…ネットワーク

フューズ回路（インターフェース）、5…バーコードリーダ、6…発信信号送出回路（送出回路）、7…ネットワーク。

代理人 (7783) 弁理士 池田憲保

